

3

There once lived a boy named Nello who lived within the Flanders region of Belgium.

He lived with his grandfather and a dog called Patrasche.

His grandfather's job was to collect fresh milk from farms in the village and take it to the city of Antwerp. One day, Nello and Patrasche were helping his grandfather do his job, as usual, whilst pushing a cart loaded with milk cartons all the way to the city.

Nello had always visited the church whenever he came to the city of Antwerp. In the church, there was a picture of Saint Mary painted by an artist called Rubens. Nello loved to paint. There was also another picture at the church painted by Rubens, however, he had to pay money to look at that picture. Unfortunately, he could not afford to see it, therefore, he had never seen it before.



5

Nello had a friend called Alois. Her family was very rich, and the big wind-wheel in the village was owned by her father, Cogez.

Nello had always shown his drawings of the beautiful views of Patrasche to Alois.

“Nello, your drawings are amazing. You will become an incredible artist one day.”

“Thanks, my dream is to become an artist like Rubens.”



ベルギーの フランダースちほうに ある、
ちいさな むらに、『ネロ』という しょうねんが いました。
ネロは、だいすきな おじいさんと、いぬの
『パトラッシュ』と いっしょに くらしていました。

おじいさんの しごとは、むらの のうかから
しぼりたての ミルクを あつめて、
それを アントワープのまちへ とどけることです。
ネロと パトラッシュも それを てつだい、
きょうも みんなで、ミルクかんを つんだに
ぐるまを ひいて、アントワープのまちへ むかいました。

ネロは アントワープのまちを おとずれた とき、
かならず きょうかいに たちよりました。そこには、
ルーベンス という がかの かいた、マリアさまの えが
かざってありました。ネロは えを かくのが
だいすきでした。この きょうかいには、もういちまい、
ルーベンスの かいた えが かざってあるのですが、
おかねを はらわなければ みることが できないので、
まずしい ネロは、まだ いちども そのえを
みたことが ありませんでした。



ネロの ともだちに、アロアという
おんなのこが いました。

アロアの いえは むらいちばんの おかねもちで、
むらにある おおきな ふうしゃも、アロアの ちちおや、
コゼツさんの もちものでした。

ネロは いつも、しぜんの けしきを えがいた えや、
パトラッシュの えを かいて、アロアに みせていました。

「ネロの えは、ほんとうに うまいわ。

いつか りっぱな がかに なれるわよ」

「うん。ルーベンスのような がかに なるのが、ゆめなんだ」

